

還相的な「勝義より世俗へ」の二の筋道がある。前者に於ては一切の世俗の有執を遮遣し断する所に勝義の證得があるのだから、こゝでは「遮遣」が主とせられる。後者は言亡慮絶の勝義が世間的な言説施設として顯はし出さることであつて、こゝでは世俗諦の設定が同時に勝義の成就となるのであるから「世俗の安立」に主點がおかれる。この二面は相即してあるべきであるが、教學のあり方によつて重點のおかれ方も異り、瑜伽唯識派が還相的な世俗の安立を主とするに對して、中觀學派が一切法の無自性空を行ふ遮遣を宗要とすることよりして、二諦についての往相的な面を重視することは當然のことと云へやう。

中觀學の大成者と云はるゝ月稱は主着入中論に於て二諦は境として二種あるのでなく、見る人の見（智）の差別によるものであるとする。即ち同じき一のものに對して虚妄見を以て取るが世俗諦、正見を以てするが勝義諦であつて、二諦が相異なる二の眞實として各々自體をもつて獨別的に並存するのではない。境としては一であるが能取の智のあり方がこれ

願生者としての凡夫と聖人

横 超 慧 日

淨土教を以て偏へに凡夫成佛の爲の教であるとする確信は、佛の本願に照して願生者としての凡夫と聖人との關係が深く追究された上の結論であつた。（a）經典には、淨土へ他方佛土の菩薩が來生し、又佛の本願に従つて十方衆生が念佛往生すると說かれてゐる。そこでこれらは一切法無自性空の主張が諸法の空無を説く虛無論でなくて、諸法に對する有執見の破斥であることと同一である。

要するに月稱は二諦と於ける世俗より勝義への往相面に重點を置いて、それが虛妄見より正見への轉換であるとする。即ち凡夫より佛位への道が凡夫に内具する般若波羅蜜の開顯にありと見るのである。このやうな所見は世俗の語義を「覆障」となす中觀學派の基本的立場をよく解明するものと考へられる。

樹や天親は菩薩であつて我等凡夫とは異

師たちは、願生者はみな菩薩であるとみて、二者の別を認めなかつた。天親は往生を願ふ者といふ上から善男子善女人と呼び、成佛を求める者といふ上から菩薩と名けたので、二者は同一人の異稱に外ならぬ。故に菩薩と凡夫とを對立させて見る考方は全く存在しなかつたと考へられる。（c）然るに中國の釋家曇鸞は、龍

る、佛の本願はあらゆる衆生をして速得成佛の益を得せしめるために淨土往生の教を説かれたから、凡夫も菩薩もその益に預ることは同じであるが、凡夫は先づ三界の輪轉より免れやうとして往生するのに對し菩薩は修行の任運無功用なる達成を望むために往生し、且つ願生心に於ても凡夫は實の生死ありとするのに對し菩薩は生の無生を知つて願生するとみた。往生すれば凡夫の生見は轉じて無生智とならしめられるといふが、ともかく願生者に凡夫と聖人の別あるをみたのは曇鸞に始まる。(d)次いで道綽は淨土が凡聖通往の國なるを力説し、佛願に由るから凡夫も菩薩も皆生ずることができるとした。然し凡夫は相善を以て相士に生じ聖人が生ずる無相士とは別なりとみたから、たとひ淨土が相士と無相士とに通じ相士から後に無相士へ轉生せしめられるとしても、一往は凡聖の別に從つて淨土に有相無相の異を立てたことになる。且つ菩薩の中でも、往生を願ふものは新發意の菩薩であるとしてゐることが注意されやう。(e)迦才は道綽の説を承けて西方に法報化三身の淨土ありとし、その

中で凡夫は化土に生じ聖人は報土に生ずると明言した。然し菩薩にして願生するものは十解以下の初心のものであり、觀經及び大經四十八願によれば五濁の凡夫が淨土教當面の目標であるから、淨土宗の意は正爲凡夫兼爲聖人と云はねばならぬと主張した。(f)善導が理證(一信念)と教證の上から淨土教は偏へに凡夫のためであつて聖人のためでなく、佛の願力に由るが故に凡夫が報土へ往生すると説くやうになつたのは、この迦才の信念を徹底せしめたものである。尙やはり要旨ではあるが稍詳細なものを印度學佛教研究第六號に載せた。併せて參照されたい。

蒙古佛教の實態調査

春 日 禮 智

蒙古の佛教は、印度佛教が婆羅門教學と徒合して出來た密教が西藏に入つて西藏佛教となり、その西藏佛教が西藏固有の民族信仰ボン教を取り入れて印度の密教と異つた新しい西藏の密教——喇嘛教

に姿を變えて行つたのであるが、蒙古佛教はその西藏佛教をそのまま直譯的に輸入したものとされているが、實は此亦蒙古の民族信仰シャーマン教を包含することに依つて出來上つた特異の佛教の一支流でもあつた。この宗教も亦西藏と同じくラマ教と呼ばれているが、どうしてこの宗教が今日すべての蒙古人の生活を指導するようになつたかと言えば、その蒙古傳來以來元朝清朝の超常識的被護と、蒙古人の絶對的歸依に依つて生じた莫大の寺領寺產が、蒙古人の經濟的政治的、そしてあらゆる文化的社會的生活を支配するに至つて、益々その強固の度を加えたものである。この佛教には色々の特長がある。西藏の佛教も支那佛教を多分に採り入れているが、蒙古の佛教もその廟の構造に依つて支那式西藏式としてその中間的要素を持つた蒙古式の三通りに分類することができる。それが廟、ジャオ(召)、スムの名で代表されているとも見ることができる。蒙古には活佛という、佛、菩薩、聖者の轉生者——フビルガントいう生き佛が澤山いる。これは佛種不斷の佛教精神の顯現である。蒙古の佛教